

安達裕之講演会

入場無料

若宮丸の漂流

船と航海



江戸時代の物流の主力、弁才船^{べんさいせん}(千石船)。「出船千艘、入船千艘」といわれた石巻・塩竈をはじめ全国の湊町はおおいに栄えた。

寛政五年(1793)十一月、16人の乗組員を乗せた800石積弁才船「若宮丸」は石巻湊(宮城県石巻市)から江戸へ向かう途中、荒天の塩屋崎(福島県いわき市)沖で遭難。舵を失い、帆柱を伐り倒し、船尾を大きく破損した船は太平洋を北東に流され、およそ5ヶ月の漂流に耐え寛政六年(1794)五月、16人全員がアリューシャン列島に流れ着く。

その後、日本との交易を望むロシア政府によって世界周航の船に乗せられ、寒風沢出身の津太夫・左平ら4人はおよそ12年後、故郷に帰ってきた――

大槻玄沢の『環海異聞』をはじめ、多くの書籍で江戸時代の日本を浮かせた若宮丸漂流民物語。その発端となった「船」と「航海」の実態に弁才船研究の第一人者が迫る。

2016年2月14日(日)
午後3:00(2:40開場)

会場：塩竈市公民館 図書室

〒985-0036 宮城県塩竈市東玉川町9-1 TEL:022-365-3341

JR東北本線 塩釜駅 徒歩1分 ふれあいエスプ塩竈のとなり

※仙石線ではなく、東北本線の塩釜駅です。ご注意ください。

【お問合せ】石巻若宮丸漂流民の会(木村)

022-229-7034



■講師紹介：安達 裕之(あだち ひろゆき)

1947年大阪市に生まれ、1972年東京大学工学部船舶工学科卒業、同教養学部勤務して、2012年に退職。専門は日本造船史。おもな著書：『異様の船―洋式船導入と鎖国体制―』(平凡社、1995年)

■主催：石巻若宮丸漂流民の会

若宮丸漂流民について、市民レベルで関心をもつ人たちが平成13年12月に結成。会員それぞれが興味をもつ分野を調べ、情報を交換し、広く伝えるという活動を行っている。会員は現在宮城県を中心に全国に約100人。